



富田 勝郎●監修
川原 範夫●編

『脊椎腫瘍の手術 [DVD 付]』

書評者

野原 裕（獨協医大教授・整形外科学）

ついにすごい本が出た。これは富田勝郎先生の勇気と挑戦の記録であり、冷静な眼力と忍耐力の記録でもある。富田先生の開拓した「total en bloc spondylectomy (TES)」は、Capnerのcost-transversectomyを両側から行うものであり、また同時に開発したT-sawも羊羹を糸で切るところから発想したという、いずれも謂わばコロンプスの卵である。さらにTESのすごさは、腫瘍を一塊として取り除くその卓越した手術手技がエビデンスによって裏付けされていることである。

序文の中で、「助さん」「格さん」に代表されるチームワークを強調し、治療計画、手術の実施、優れた術式開発のエビデンスによる裏付けの原動力となったチームワークに謝辞を述べており、茶目っ気がありほのぼのとした温

かい先生の人間味が伝わってくる。

総論がまたすばらしく、診断から治療手段の選択に至るまでのフローチャートには富田軍団の哲学を随所に垣間見ることができる。この手術に挑むものが遭遇するであろう困難への「コツ」や出血対策、誰もが心配する脊髄血行の問題や腫瘍細胞の汚染に関してまで丁寧に記述されている。

各論で提示された疾患別の症例は見慣れているとはいえ「よくぞやった」の連続である。クライマックスは付属のDVDによる手技の公開で、腰椎前方大血管の陰から取り出される椎体腫瘍塊は何度見ても背筋がザワザワしてくる。

TESという優れた手術が未だ普遍化していないことを嘆かれているが、近い将来、標準的手術になると確信す

るのは私だけではないだろう。そして本書はその時にバイブルとなっているであろう。

ここで示された論理思考、技術は他の多くの脊椎疾患にも応用できるものであり、脊椎外科医を自負するものはここに記されたすべてを修得すべきだと思う。その意味で、脊椎外科に携わる者、これから脊椎外科医になろうとする者にとり「必携の書である」と言っ

て過言ではない。最後に欲を言うならば、英語でも出版し広く世界に発信してほしいと願うものである。



A4 頁192 2010年 医学書院刊
定価16,800円（本体16,000円＋税5%）
[ISBN978-4-260-00975-1]